暮らしの安全を守り、安心を実感できるまちづくり

～災害への備え～

市民が災害時に安全に避難することができ、日々の生活に不安を抱くことなく、安心して登別市に暮らし続けることができるよう、北海道胆振東部地震などの経験を教訓に、自助・共助・公助の連携を基本としながら、災害時の指揮拠点となり避難所ともなる公共施設の耐震化や市民の安全安心を守る消防体制の充実強化などに努め、これまで以上に実効性のある災害に強いまちづくりに取り組む必要があります。

また、道路や水道、ごみ処理施設など、暮らしに欠かせない都市インフラについては、少子高齢社会を見据え、将来にわたって継続できるよう計画的に長寿命化などの整備を進めていく必要がありますので、適宜、計画などの見直しを行うなど、市民の皆さんのご理解とご協力をいただきながら、安全安心な暮らしの環境づくりに取り組んでいきます。

防災に関する各種計画などの策定

災害に的確かつ迅速に対応するためには、日ごろからの備えが重要です。

近年多発する記録的大雨や台風、地震などの大規模な災害時において、避難所の運営や物資の供給、災害対策本部の設置、人員体制の確保など、最低限、維持しなければならない行政機能を確保するため、災害対応業務や優先度の高い通常業務などの非常時優先業務をはじめ、代替庁舎や職員の参集などについて定めた『業務継続計画（ＢＣＰ）』を平成31年3月末までに策定し、発災時に市民生活を守る市役所機能を堅持できるよう、職員への図上訓練や研修などを通しながら、災害時に適切に運用できるよう備えていきます。

▲北海道胆振東部地震の際に設置した災害対策本部には、多くの関係機関を招き、情報共有を行った

また、被災者の命をつなぐ拠り所となる避難所の迅速な開設や運営、避難者との情報共有体制の整備など、避難者が安全に安心して避難所生活を送ることができるよう、平成31年3月末までに『避難所運営マニュアル』を策定し、総合防災訓練をはじめとしたさまざまな機を通して訓練を行い、適宜マニュアルを見直すなど、実効性を高めていきます。

さらに、当市が大規模な災害に見舞われた場合を想定し、必要な職員体制や物資などの管理、防災関係機関との連携やボランティア団体などの受け入れ体制、受援の担当部署の設置など、迅速に効果的な支援を受けることができるよう、平成31年度を目途に『災害時受援計画』の策定に向けて取り組んでいきます。

▲姉妹都市である宮城県白石市と神奈川県海老名市から届けられた支援物資

これに加え、近隣自治体などが被災した場合の救出・救助や被災者の受け入れ、救援物資の集配などの応援体制を示す『後方支援計画』の策定に向け、平成31年度は、噴火後約19年を数える有珠山噴火への対応を中心に関係自治体と協議を行うとともに、当市の後方支援のあり方などについて検討していきます。

大規模災害時においては、災害廃棄物が大量に発生し、その処理が大きな問題となることから、災害発生時に災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理することができるよう、平成31年度を目途に『災害廃棄物処理計画』の策定に向けて取り組んでいきます。

さまざまな想定のもと、取り組む訓練

隔年で開催している総合防災訓練については、本年7月20日を開催日とし、鷲別地区において実施します。会場となる鷲別小学校は、津波避難ビルに指定しているとともに、災害時においても、必要最低限の電気を確保できる発電機や非常用食料などを備蓄するための防災備蓄庫を最上階に設置するなど、防災機能を備えた施設でありますので、訓練では、津波を想定した避難訓練や防災行政無線などによる情報伝達訓練のほか、避難所を開設し、運営にあたる訓練や非常用発電機の起動を体験する防災体験ブースなどを設け、幅広い世代が参加し、学び、実際に体験できる取り組みとしていきます。

▲非常食や毛布などを備える鷲別小学校の防災備蓄庫

鷲別小学校